

令和6年(2024年)10月26日

駒工同窓会が全国高校ロボット競技大会出場選手を激励!

「第32回全国高校ロボット競技大会」に出場するロボット研究製作部キャリア班2チームに対する激励会を駒工同窓会が開催、エールを送っていただきました。

同窓会長 湯澤英喜さんより激励金を贈呈して頂きました。



また、激励の横断幕を寄贈して頂きました。ベストを尽くして頑張ってください。

(3) 2024年(令和6年) 10月26日 土曜日 長野 河) 日刊 上伊那

全国高校ロボット大会きよう開幕 駒工2チームが出場

「8強入り目指す」と闘志

高校生が自作したロボットの性能を競い合う「第32回全国高校ロボット競技大会」(26、27日、栃木県)に、駒工根工業高校(駒ヶ根市)のロボット研究製作部キャリア班の2チームが県代表として出場する。ロボットの改良に取り組み、操作技術などを磨いてきたメンバーたちは「ベスト8入りを目指したい」と闘志を燃やしている。

遠隔操作型と自立型の2台のロボットを使用する大会で、全国の96チームが出場する。遠隔操作型は、大きな異なる3種類の球やメガホン、ロボット研究製作部キャリア班の2チームが県代表として出場する。ロボットの改良に取り組み、操作技術などを磨いてきたメンバーたちは「ベスト8入りを目指したい」と闘志を燃やしている。

今日大会の競技内容は従来から様変わりしていて、班員11人は4月から試行錯誤しながらロボットの製作。フアイデアを出し合うのが大変だったと班員たち。競技アイテムの形状を考えながら、伸縮性のある樹脂製の棒を部品に取り入れるなど工夫。同様の性能のロボットを、AとBの2チーム分製作し、9月の県大会に出場。Aが優勝、Bは3位入りを果たし、両チームとも全国への出場権を得た。他校のロボットを参考に、全国に向けて、競技アイテムを安定して持ち運びできるようにするなど、さらに改良を加えてきた。とりわけ遠隔操作型はタイヤ部分のギア比を調整、移動速度を向上。従来よりも30秒近く競技を終えることができるように改善した。

ともに3年の城倉伸紀さんと北澤琉海さんは「より良い車体が出来た。ベスト8入りを狙いたい」と大会に向けて抱負を語った。

(寺田英祥)

全国大会に向けて闘志を燃やす駒工のロボット研究製作部員

長野日報 Nagano Nippo
ご購読ありがとうございます
10月26日(土)
発行所 長野日报社
〒392-8611 諏訪市高島3 ☎0266-52-2000代
©長野日报社2024

大会結果はBチーム優勝、Aチーム準優勝と輝かしいものとなりました。全国制覇おめでとうございます。